

## ナーシング・スキル日本版監修で描いた未来

東京大学医学部附属病院 看護部長 武村雪絵

ナーシング・スキル日本版が15周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

監修をお引き受けした当時、東大病院では紙媒体で看護手順を管理しており、文字だけでは手技をイメージしにくいことや、改訂・管理に多大な労力を要することが課題となっておりました。他の企業から当院の看護手順をデジタル化して製品化する提案も受けましたが、最新のエビデンスを継続的に反映し続けることの難しさや、他施設で作成された看護手順を利用する発想が当時はなく、ビジネスとして成立するか疑問を感じたことから、お受けするには至りませんでした。

そのような中、エルゼビア社より監修のお話をいただきました。専門スタッフが最新のエビデンスを継続的に確認し、手順を更新していく仕組みを伺い、「これこそが目指すべき未来」だと直感したことをよく覚えています。中でも印象的だったのは、担当の方がスマートフォンで動画を見せてくださったことです。「いつでも、どこでも、必要なときに確認できる」という新しい価値に触れた瞬間でした。

導入施設の状況について伺うと、米国ではシェアが拡大しており、当初は各施設が自施設の手順にカスタマイズしていたものの、次第にナーシング・スキルに手順を合わせる方向へと変化していったとのことでした。その言葉に、大きな可能性を感じました。

日本中の看護師が、看護手順の作成や改訂に費やしている膨大な時間と労力から解放されること。教育機関においても、学生が常に最新の標準的手順を学べること。そして、どの地域においても質の高い標準化された看護が提供されること。さらに、標準化が進むことで、新人看護師や転職者の適応がより円滑になること——。そのような未来像が、当時、私の中に鮮やかに広がりました。

そして今、そのときに描いた未来に着実に近づいていると感じています。ナーシング・スキル日本版がこの15年の歩みの中で、日本の看護実践と教育に果たしてきた役割は極めて大きいものがあります。今後も、最新のエビデンスに基づく質の高い看護の実現と、看護職の学びと実践を支える基盤として、さらなる発展を遂げられることを心より期待しております。

あらためて、15周年、誠におめでとうございます。